

第1回男鹿市総合教育会議議事録

- 1 日時 平成28年5月17日(火) 14:30～15:45
- 2 場所 男鹿市役所3階第一会議室
- 3 出席者 男鹿市 市長 渡部幸男
男鹿市教育委員会 教育長 鈴木雅彦
委員 目黒恵子
委員 角崎紘二
委員 清水富喜子
委員 山本貴紀

4 協議事項

- (1) 今後の小・中学校の在り方について
- (2) 男鹿市教育大綱の推進に係る取り組み計画について

5 会議録

●事務局

ただ今から平成28年度第1回男鹿市総合教育会議を開催いたします。
始めに、渡部市長よりあいさつをお願いいたします。

●市長

皆さんこんにちは。今日はご多用のところお集まりいただきましてありがとうございます。
2点お話しさせていただきます。

4月に東北都市教育長協議会総会・研修会が男鹿市で開かれました。その際、アトラクションで男鹿北中のナマハゲ太鼓クラブの生徒2・3年生がナマハゲ太鼓を演じてくれました。その時の態度が大変立派だということで、各教育長から絶賛されました。男鹿市の教育を見た思いがするとお褒めの言葉をいただきました。出席された教育関係者みんな喜んだと思います。子供たちが頑張っていますので、男鹿の教育をますます良いものにしていきたいと思っております。

それから、2点目ですが、今日、環境庁の方がこられました。珍しい植物で男鹿のアツモリソウというのがございまして、日本国内で男鹿にしか生息していないそうです。絶滅危惧種で管理してるんですけど、これを地元の人たちにわかっていただきたい。学校でこういうのをやったらどうだろうか。北海道大学で増やす方法をしている話もありました。男鹿市の子供たちに勉強して頂きたいと思っております。

いずれにいたしましても、昨年制定していただきました男鹿市の教育大綱に基づきまして、男鹿市の教育について色々な面でご意見をいただき、ご協議いただきまして、特徴を出せるものをだしていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

●事務局

ありがとうございました。それではこの後の進行につきましては、本会議を主宰します市長よりお願いいたします。

●市長

それでは進行を務めさせていただきます。よろしくご協力をお願いいたします。お手元の次第にしたがって進めてまいります。3の協議事項であります。(1)今後の小・中学校の在り方について事務局から説明をお願いします。

●事務局

～協議事項(1)説明～

●市長

ただ今の説明につきまして、意見交換をおこないます。皆様からご意見を伺います。

●角崎委員

小・中学校の児童生徒の人数が減っていくのは、ある程度時代の流れでやむを得ないところもありますが、解決するかどうかはわかりませんが、統廃合がこれから問題になるだろうと思います。今回の統合についても、市長の政治的判断は必要だったと思いますし、課題を解決するためには、今後、具体的に、協議会を作ってもいいし、教育委員会と相談することになると思いますが、そういう方向で考えていただきたいと思います。

課題の中にある、児童生徒同士が互いに切磋琢磨し合う環境が確保できない、人間関係が固定化してしまい、とありますが、統合する前に各小規模校同士の授業も含めた交流ができないか、バスを用意して授業を一緒に受けさせることが可能かどうか。統合までにはそういうことも少し考えたほうが良いのではないかという気がします。

●教育長

いま、角崎委員がおっしゃる通りでありまして、小規模校ですと多様な考え方に接する機会が少ないし、体育や音楽など集団行動を伴う授業ができにくいということもあります。これまで、統合が決まった段階で、1年ぐらい前から統合する小学校同士が授業の交流を行うことを続けてきておりますけど、現状においても小さい学校がいくつもございますので、スクールバスに乗って同じ学年同士で、合同の授業を行うとは切磋琢磨し合う環境づくりという点では、大変有効な方策になると思います。スクールバスを有効に活用しながら、合同授業がどういう形でできるか、どういった効果があるか検討してまいりたいと存じます。

●角崎委員

ありがとうございます。

●山本委員

資料2頁の統合の形は、ある程度済んでいるが、次のステップとして、男鹿半島の地形の問題、立地の問題が障害になる部分があると思います。その中でバランスのとれた学級、人数、アンバランスなところもあります。5年後10年後の人数が出ていますから、バランスを考えた上での統合、地域性の特色など考えた上で、私達も勉強しながら、この案件については進めていきたいと思っております。半島の真ん中に学校はないわけで、全部端にありますから、距離的な移動などが子供のストレスにならないよう、考えていければと思います。

●目黒委員

地域により児童・生徒数のバラつきが起こっております。そのバランスをとる方法として、新たな区分案があるようですが、保護者や地域の人たちの十分な理解はもとより、児童・生徒の基本的な学習環境を考慮しながら教育効果が上がるようにして頂きたい。

●教育長

山本委員のご指摘のとおり、男鹿市の場合は船越地区に人が集中しており、男鹿東中学校だけで、全中学生の59%となっております。区割りという話がありましたが、学区の変更まで踏み込むかどうかということになりますけど、学区域を変更することは大きな問題になりますので、今後どういう方向性があるのか、教育委員会でも検討する材料になってくると思います。

●角崎委員

将来的に市内に中学校が2校というのが適切かもしれませんが、地域的な事も十分に考慮して考えていくべきではないかと思えます。

●教育長

従来の考え方を踏襲できないような状況に入ってきております。市の総合計画を策定する際の人口統計では、どの学区域でも人口は減少する見込みです。学区域の変更ということも選択肢の一つとして、全市的な視野に立って考えていく必要性があると捉えております。

●目黒委員

現在、少なくなった運動部を選択するうえで、部活動のために他の学校に入学させている場合があります。部活動の重要性を考えて頂きたい。

●教育長

学区域の捉え方は、柔軟になってきておりまして、本来自分が行くべき学校に希望する部活動がない場合、希望する部活動が設置されている学校への区域外就学は基本的に認められております。中学校では、特に集団競技の部活動が難しいという大きな問題になってきておりますし、部活動の面からも、中学校の在り方について、十分検討してまいりたいと思えます。

●市長

在り方を考えることについて、今後どういう形でいくのか委員の意見を踏まえ考え方をお願いします。

●教育長

これまで公式的発言として、小学校は複式学級の解消、中学校は1学年2学級以上の学校規模となるよう進めてきておりますので、基本的な考え方は、この考え方で行きたいと思えます。学校規模のバランスが保てないとも予想されますので、それを含めた形で、学区域まで踏み込むかどうか、いろいろ情報を入手しながら進めていきたいと思えます。

●角崎委員

いろいろ情報を集めていただいて、我々も勉強しますので、将来、生徒がうまく活動できるような統合を目指してやっていきたいと思えます。

●市長

それでは、今後の小・中学校の在り方についてはこの程度にとどめたいと思えます。

つづきまして、男鹿市教育大綱の推進に係る取り組み計画について事務局から説明をお願いいたします。

●事務局

～協議事項（２）説明～

●市長

ただ今の説明につきまして、皆様からご意見を伺います。

●目黒委員

コミュニティ・スクールが今年から始まりました。漠然とではありますが、全体的にイメージしております。各学校が、校長先生を中心に「子どもたちのため、特色ある学校作りのため」取り組んでいます。この事業を完成させるには、長期期間かかると研修先で聞きました。各学校が地域の特色を活かすと同時に連携を密にして取り組んでいかななくてはならないと思いますがいかがなものでしょうか。

●教育長

4月1日に全小・中学校をコミュニティ・スクールに指定いたしまして、まもなく1回目の学校運営協議会が終わる見込みであります。1回目ですので、今年度の学校経営の案について承認して頂く作業と具体的に年間どのような活動をしていくかというところで、学校運営協議会が終了しておりますが、2回目以降は、具体的な組織に基づいた活動という流れに入ってきます。コミュニティ・スクールとして特色が出せると、学校と地域が双方向で子供たちを育てていくことができるという、そういう話し合いがこの後2回目以降活発になると思います。まだ、現実、5年先までは見通せない状況にあります。年間の計画もそうですが、5年後、10年後の中期的な形を見せて、コミュニティ・スクールを導入していくかということが必ず必要になるかと思えます。11月に全部の小・中学校からコミュニティ・スクールの中心となっている方に集まっておきまして、各学校の取り組み事例を発表して頂く予定となっておりますので、5年後こういう形でという共通認識の場になりますので、そこで改めて教育委員会の考え方も提示しながら進めていきたいと思えます。

●市長

コミュニティ・スクールについて、更にご意見を伺いたいと思えます。

●山本委員

この案件については、私ども教育委員も2年前から研修に出ささせていただき各地の学校の取り組みを見させていただきました。対照的な学校を2つ見させていただいたのですが、特色、差別化といいますか、全く違う色が出てました。これを男鹿にもってきた場合どうなるのかと、いろいろ私も考えました。男鹿市の学校は特に小規模校はそうだと思いますが地域との交流をやっておりまして、その継承として、活字に落としながら、コミュニティ・スクールが進んでいくと思えますが、中に入ってくれる、リーダー、会長さんを含めて、色々な方々が色々な話をして、ますます学校が良くなるのではないかと考えております。

南中学区さんが一昨年から先行してやられておりますけれど、全地域にスムーズに進んでいく感じがします。間もなく運動会も始まりますけれど、それ以外の会でもどんどん広がっていくと思えますし、それほど心配はしていないし、ある意味でスムーズに行くのかなと思っております。子どもたちの状況を見ながら、地域の方々がどんどん学校に絡んでいくわけですが、一番大事な要素だと思えますから、楽しみにしております。

地域間交流の小学校5年生を対象にした、なまなげオートキャンプ場と里暮らし体験塾と

ということで、教頭先生が今年の冬に勉強なさって、いろんなことを体験して、実践して、学校の先生が楽しめて、先生たちが発見している部分があります。これを6月に北陽小学校からやるんでしょうけれど、それをまた、子供たちに教えるんで、いい取り組みだなど、私自身も思います。市長も前からおっしゃったように、男鹿にあるもっといいものを探ろうということで、それは実現できていると思います。検査もしなければいけないのですが、終わった後の感想も含めて、しっかり教育委員会のお話を聞きたいなと思っております。

最後に、ジオパークのことですが、前回の教育委員会会議で、若美庁舎の学習センターの開館時間が、予算的なことで、土日が見せられないということが残念に思っています。せっかく今まで、男鹿として、ジオパークとして色々なことをやってきており、ましてや、来年度全国大会を男鹿でやるという中、土日に外から来る人がいる中、センターがクローズとなると残念でなりません。外に見せることも大事だと思います。学習センターという立派なものがあるわけですから、利活用をしっかりと考えないといけないし、地元の子供にアピールするのは平日でもいいと思うのですが、利用の配分をもう少し考えていただければ、次年度に向けて、色々なことができるのではと思っております。

●市長

平日のジオの状況について説明してください。

●教育長

土日、平日ともに1日に平均で7、8人が来場しております。

●山本委員

日本ジオパークに加入しており、世界ジオパークを目指すと言っているのですから、外に見せて、アピールすることが大事なと思います。

●教育長

教育委員会として運営していく上で、多くの方に男鹿に来ていただきたいわけですが、子供たちへの普及を図りたいということで、月曜日休館ということでしたけれども、土日休館にして月曜日から金曜日にやるということにしました。土日に男鹿半島をめぐる途中でジオパーク学習センターをコースとして考える方もいらっしゃるんですけど、教育委員会では平日対応でと考えております。まとまった団体で、どうしても土日という要望があれば、考えたいと思います。

●山本委員

臨機応変に対応して頂けるということをお伺いいたしました。

●市長

コミュニティ・スクールについてご意見ございませんか。

●角崎委員

コミュニティ・スクールは男鹿市の教育の目玉ですよ。市長も力を入れているし成功させないといけないという思いも強くあります。山本委員もおっしゃったように私ども研修させていただいて感じたことは、学校長の意欲によってコミュニティ・スクールの成功に差が出てくると。教育委員会は最初は強く学校長を指導してよのではないかというのが私の考えです。もう一つ、コーディネーターを学校で選ぶんでしょうけど、コーディネーターにどう

いう方を選ぶかがコミュニティ・スクールをうまくやっていく秘訣かなど、その点についても教育委員会の指導をお願いしたい。

●山本委員

～都合により退席～

●教育長

学校の活力維持、地域の活性化、それを満たすのがコミュニティ・スクールだと受け止めております。たしかに、当初は校長の熱の違いはありました。2年かけてやっていく段階でどの学校の校長先生も勉強をしますし、4月1日に向けて学校の組織体制を作ってきておりますので、そんなに凸凹の状況ではないと思っております。ただ、人事異動で新しく男鹿市にきた校長先生は、ゼロに近い状況から勉強しないといけないので、そこは、教育委員会としてしっかりフォローしていきたいと思えます。形がしっかりできるまでは我々も学校を回りますし、学校の協議会などにも担当の指導主事が出席し、支援してまいりたいと思えます。コーディネーターについては、一番重要な位置を占めており、各学校では教頭先生が、コーディネーターとなっている学校がほとんどですが、この後、県教育委員会、文部科学省において、コミュニティ・スクールを推進するための人的補助があれば積極的に応募していきたいと思えます。

●市長

コミュニティ・スクールについて、ほかになにかご意見ございませんか。

●清水委員

PTAの方は、どのくらいかかわっているのですか。

●教育長

PTAの会長さんが学校運営協議会の委員になっています。

●清水委員

会長さんだけですか。

●教育長

だいたい副会長さんと2人が多いですね。

●清水委員

PTAはPTAとして独自の活動をするということですね。

●教育長

従来のPTAという組織はありますので、PTAはPTAとして学校行事に参加することになりますけど、それとは別に学校運営協議会としてどう学校を支援していくか考えていく流れになります。

●清水委員

一緒にはならないものですか。一緒に活動したりということはできないですか。

●教育長

活動を一緒にするという事は可能だと思います。

●清水委員

町内会の人達を巻き込むということは、活動するときに知らせていただいて、周りの町内

会の人たちも参加できるような取り組み方もしていただきたいなど。

●教育長

これも、十分可能でして、現在も地域の伝統行事の継承についてはそういう形で動いてます。たとえば町内会の人と一緒に盆踊りを盛り上げたり、船越であれば統人行事を子供たちも出て地域の人と一緒にやったり、学校に来てもらって子供たちには教えていただいたりしております。

●清水委員

PTAの方々、地域の方々がそれぞれ活動する場合に、張り合ってしまうということを研修に参加した時お伺いしました。保護者の方もあんまり地域と言っちゃうとバランスが取れなくなるので、それが悪い方向に行ってしまう場合もあるので、地域の方々が参加するのはもちろんですが、親の気持ちというか、そういうバランスを取らないと結果がどう出るか心配だなと。

●教育長

校長の手腕だと思いますけど、PTAに対しても、地域の方に対しても顔を立てないといけないと思います。バランスということで、この内容はPTAの方から中心にやってもらうとか、この内容は地域の方々に中心にやってもらうとか、そういうバランスを取りながら両方がうまく共存、一緒にやっていけるような環境の下で進めないと良い結果が出しづらいと思います。

●角崎委員

学校統合によって、たとえば野石地区、五里合地区の方が一緒に運動会に参加するとか増えてきてるわけでしょ。コミュニティ・スクールを核として他地区が共存、共栄するいい機会にもなり、コミュニティ・スクールという制度は、非常にいい制度だと私は思っております。

●教育長

統合しました美里小学校、船川第一小学校もそうですけど、それぞれの旧学区から同じ人数になるように学校運営協議会の委員を選んでおります。学校のこともそうですし、地域のことでも話題にしながら話し合うという形で1回目の学校運営協議会を始めたようです。コミュニティ・スクールというのは、つきつめれば学校を核とした地域づくりになるかもしれませんので角崎委員のお話のように、学校を中心として子供たちも豊かな成長をとげることができるとし、また地域もまとまっていけるというような形がコミュニティ・スクールの最終目標になると思います。そういう形にもっていけるよう我々も方策を考えながら進めていきたいと思っております。

●市長

コミュニティ・スクールについて、ほかになにかご意見ございませんか。

コミュニティ・スクールについては、この辺にとどめたいと思っております。

ほかの案件でございましたら、お願いします。

●目黒委員

学力向上、運動能力の向上のところですが、5年目となると思っております。受験を控えた3年

生に光通信で補習授業をしていただくということは、大変ありがたい事業だと思っております。先生方のご理解のもと、学校で取り入れ先生方のお力を借りて子供たちのために活用していく事だと思えます。せっかくの事業を生かして頂きたい。

●教育長

おっしゃる通りでして、教育委員会と学校との距離感がちょっと出てしまっているのが事実であります。今、ご指摘がありましたように、学校がこういうものをどう活用していくかとかという姿勢で頑張ることで効果が上がると思えますので、なんとなくやらなければいけないということではなく、これをどう活用して子供たちに力をつけさせるかどうか、そのために学校では先生方がどういうかかわりをすればよいのかが重要ですね。そこをもう一度、このあと校長会も今日ございますけど、校長先生と確認していきたいと思えます。

●角崎委員

私から2点。市長への要望なのかもしれませんが、スポーツ合宿等の誘致が昨年、非常にうまくいったのではないかと思っていて、力を入れてやってほしいと、市長に要望したいと思えます。

それから、もう1点、読書活動の推進が生涯学習の推進に出っていますが、学校での読書活動について、どのような具合にしているのか。現在どのようにしているのか、解るようであれば教えていただきたい。

●市長

スポーツ合宿についてでありますけど、1つは秋田大学男鹿なまはげ分校の茂木分校長が大変熱心に動いて頂いてまして、例えば日本体育大学の集団行動が来てくれました。これが縁で、日本体育大学とスポーツ合宿の協定を結びました。合宿に来ていただくだけでなく子供たちとの交流も行っております。また、今までの流れの中で中村和雄前ヘッドコーチによるクリニック的なことも男鹿で開催するということで、常に男鹿は何かやっているというくらい、関係を幅広く持っていきたいということで、特に子供たちに来ていただいて、今までの連携を深めていきたい。数を増やしていきたいと思っております。

例えば、流通経済大学の剣道部もずっと来てくれております。プラスしていくことによって、また、剣道は、さきがけ魁星旗、今やっている大会、合宿を広げていくことができると思えます。今年初めて行った柔道の錬成会については、今後については大会にしていこうと。錬成会については市がここまでやっていただけなのかとお礼を言われたケースがございます。そういうのを広げていきたいし、また、同時に市民、特に子供たちに見て刺激にしていきたいしレベルアップしていきたいと。集団行動は年配の方が見るとすごく元気になる。集団行動は年4回やっていて男鹿に来たのが3回目だったんですけど、かなり完成形に近づいているものでしたから、ご覧になった方は、形が決まるとおのずと拍手が出るような感じでした。

●角崎委員

非常に評判がよく、そういうのをよろしく願いしたい。

●教育長

読書活動の推進ですけれども、学校に図書支援員を配置し、小学校、中学校の図書室はかなり整備されました。小学校は、昼休み、給食の後に読書活動の時間を設けておりまして、全員が20分ぐらい読書に親しむという活動をしております。また、年間を通して本を借りる子供も、平均して20冊30冊それ以上借りています。中学校に行きますと、部活動で忙しいこともあるでしょうけれど、ほとんど本を読まなくなってしまう。本を借りる生徒も平均すれば年2冊程度で極端に少なくなってしまう。中学校では、活字、本から情報を入手するというよりもインターネットから情報を取ることが増えてますが、文学作品など子供にとってこの時期に是非読んでおくべき本というものがございますので、図書委員会が各学校に設置されておりますので、図書委員会の活動を通して読書に親しめるように伝えていきたいと思っております。

●市長

ほかにご意見ありませんでしょうか。

●清水委員

ジオパークの件について質問ですけど、この間、ほかの方から聞かれたことなんですけれど、ここを見学する場合はどうしたらいいのかという話が出た。町内会とかサークルで20人ぐらいで回るときに、男鹿市のどこに頼めばいいかと、そして案内人も頼めるのだろうかとか・・・私が周りの人に聞いてみると地元の人でもジオパークに行っていない、全体的には知らない人が多いのではないかと。逆に、土日にジオパークを回るマイクロバスとか、船川の駅から出るとか、考えられないのかなと思っておりますが如何でしょうか。

●市長

案内人、ジオガイドは、ジオパークの大きな一つの要素なんです。その活動が認められて再認定になったんですけども、今の話について、教育長はどう考えていますか。

●教育長

今認定ジオガイドは全部で28名おります。最低1人1回はいろんなガイドとしての説明をしております。教育委員会の方に電話いただきますと、いろいろ計画を組む方に連絡がいきますので、この日はこの方ということですのですぐ連絡はつきますので、是非ジオガイドの方々を活用していただきたいと思っております。年間を通して動けるような人数の体制でいっておりますので、教育委員会に電話をいただければすぐ手配するという流れになっておりますので、いろんな方々から、ジオサイトを回っていただければと思います。

●清水委員

足がないとあれなので、男鹿市でそういうバスはないですか。

●教育長

専用のバスはないです。

●清水委員

そうすると、ちなみにこのジオガイド頼んだ場合、料金はおいくらでしょうか。

●教育長

5時間で8千円ぐらい。団体だと一人当たり割安になります。

●清水委員

なんか土日とかにこういうことをやっていますというような、広報は必要なんでないかなと思います。船川の駅に降りたら、例えば10時にジオパークツアーのバスが出ますとか、せめて祭日のところにこういうのがあればいいんでないかなとちょっと思いました。

●市長

今のお話の中で一つ、男鹿の駅で二次アクセス、そこにジオガイドが乗ってということで、バスは一定の人数が期待できるからできますけど、今すぐとなるとできないので。ただ、清水委員の中で何人かおられるのであれば、是非ジオガイドを活用するという事、しかも二次アクセスについてはある意味で宣伝期間ですから、そういう方も若干補助考えているので、是非実績を作るのも、ジオガイドもそうですし、それから二次アクセスもそうなんです。是非そこら辺もお願いしたいと思います。二次アクセスはジオを全部回るわけにはいきませんが、ポイントは回れると思いますし、ジオのポイントはここに行くと同じコースになるので、是非そういう活用も声かけていただくと我々としてはジオガイドを宣伝しているつもりですけども、まだまだというのが実際のところでありますから。

●清水委員

各町内会は、レクリエーションとか年1回のお楽しみ会みたいなのもこれから先いろいろ計画しています。ジオパークは適切な見学場所かなと思いましたが、まとまった人数が乗れるものがあればなと思ったところです。

●市長

こういう話があるとおっしゃっていただければ、どういう対応ができるかと検討してまいりますから、是非お願いしたいと思います。

●教育長

ジオパークを回るコースを複数設定していますので、それから選択していただいて好みのコースを回るのが十分可能になります。是非ご活用いただきたいと思います。

●市長

他にございませんでしょうか。よろしいでしょうか。それでは男鹿市教育大綱の推進に係る取り組みについてはこの辺にとどめたいと思います。他に、その他で事務局からありますか。委員の皆様から何かこれ以外のことございますでしょうか。

皆さんには、脇本城跡復元想像図をご覧くださいませんか。

●市長

奈良大学の千田学長から監修していただきましたが、拡大するともの凄く詳しいです。これだと普通の再現図なんですけども、アップしていきますと本当に弓矢の練習している姿が見えます。

●目黒委員

インターネットなんかで見ることができるんですか。

●教育長

容量が大きくてちょっとインターネットでは見る事が出来ません。タブレットに全部データ落としてタブレットを通して見るというのが、今の状況であります。

●目黒委員

借りることできるんですか。

●教育長

まだそこまで行っていません。

●市長

それからちょっと話違いますが、ジオパークで研究課題ということでやったら、弘前大学の教授がジオの写真でいろんな方向から見られる入道崎、あれはご覧になっていますか。あれも是非ご覧いただいて、ジオが観光になりますね。入道崎がいろんな方面から見られるんです。いまで言えばドローンで見るような雰囲気です。それは、研究成果として出していると思います。

●目黒委員

脇本のトンネルのところを通るたびに思うんですけど、車が1台、2台止まっているんですけど、あそこに、どこに行けば資料をもらえるのかとか、そういうことを多分わからないで行っていると思います。バイクに乗った人が止まっていたりということがよくあるので、どこへ行けばその資料がもれえて、どういうことがわかるのかという何か書いたものが立っていればいいかなと。ただ一人で登って行って黙って帰って行ってしまうように見えるので、やっぱりそこら辺ちょっと親切に説明があればいいかなと思います。

●市長

ほかにご意見はありませんか。

それでは、これをもちまして男鹿市総合教育会議を終わらせていただきます。皆様ありがとうございました。